

ふたごなばなし

成人向

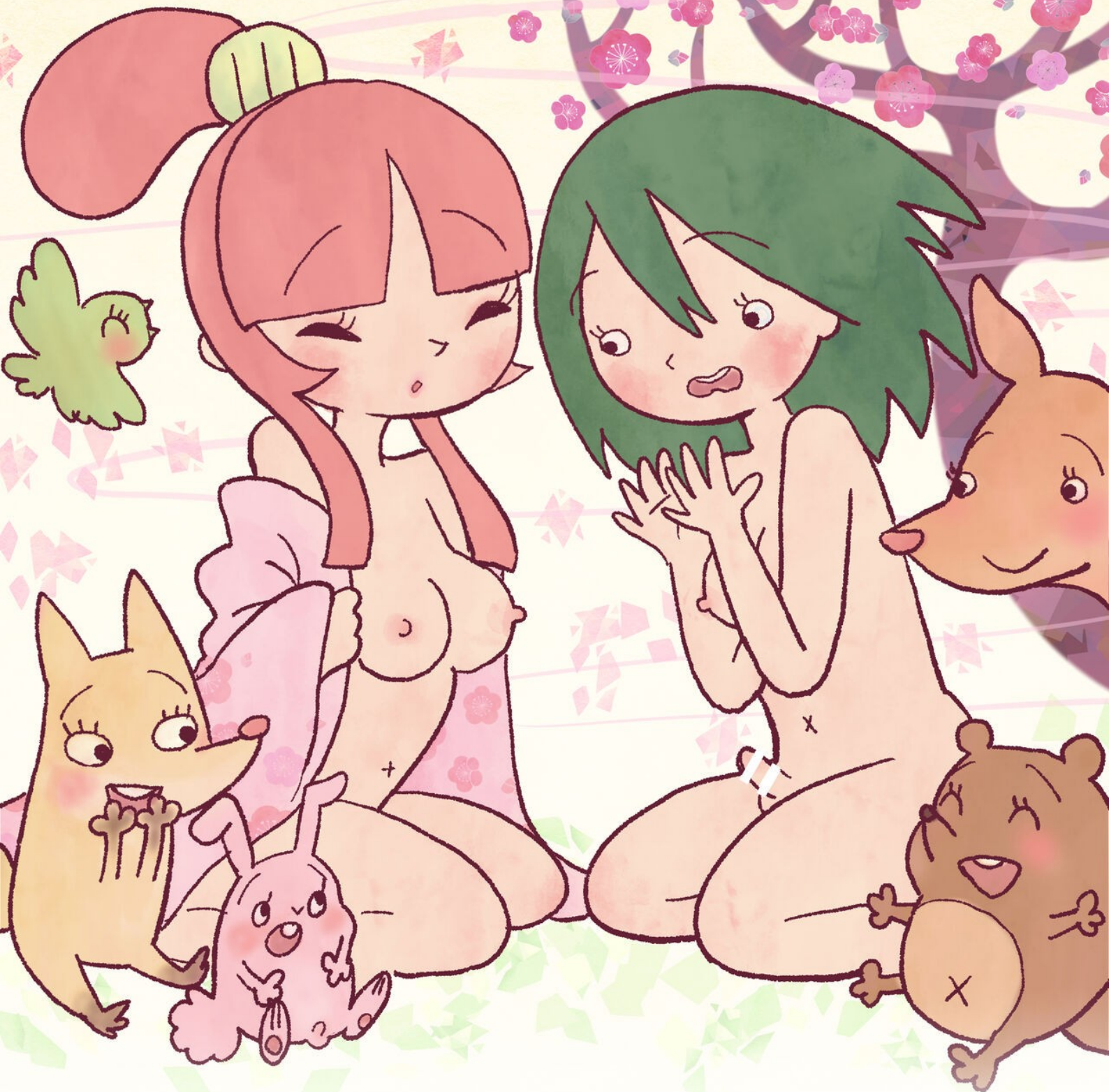
# 春の子種



ふたごなばなし

成人向

# 春の子種

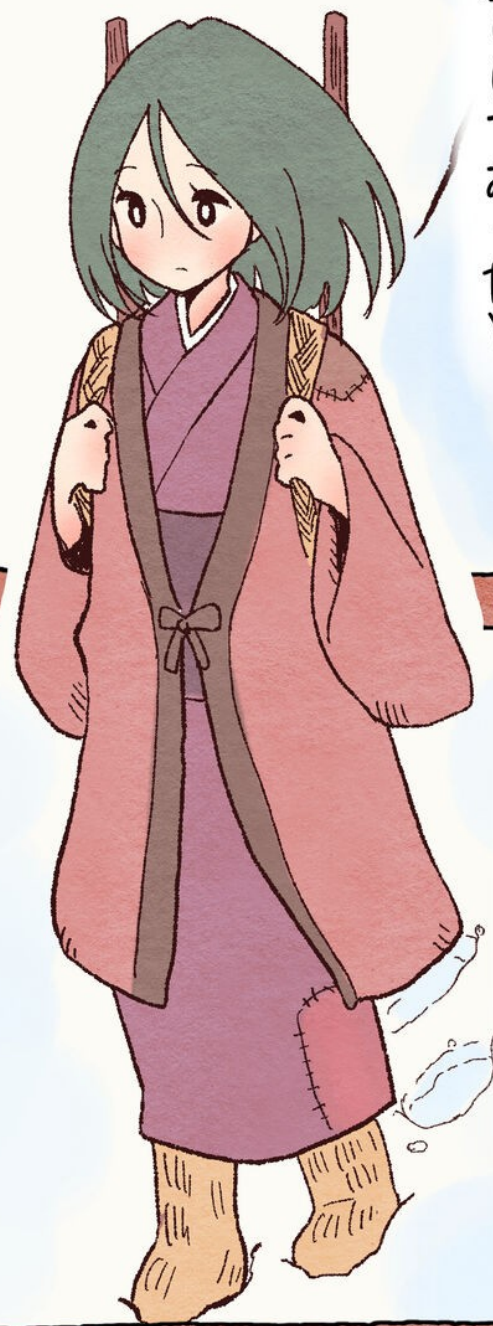


転載禁止  
DO NOT REPOST  
請勿無權轉載

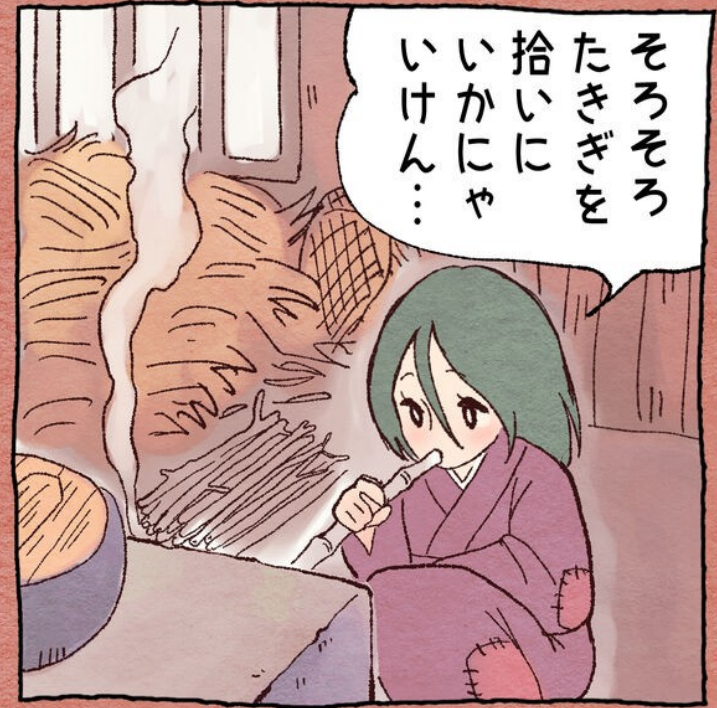
- ・この作品はR-18指定作品です。18歳未満の方の閲覧はご遠慮ください。
- ・この作品に登場する人間のキャラクターは全て18歳以上です。
- ・この作品は全てフィクションです。実在するものとの関係性は一切ございません。
- ・この作品の転載は許可しておりません。

むかしむかし…  
ある人里離れた  
山奥に

ヤエという  
若い娘がひとり  
暮らしておったと



そろそろ  
たきぎを  
拾いに  
いかにや  
いけん…



冬の山の暮らしは  
それはもう  
きびしいものでした

まだ雪が  
こんなに深い…  
もうとつくに  
春が来てもいい頃  
なのに…



春になれば  
山の山菜や薬草を採って  
ふもとの村へ売りに  
行きます  
ところがその年の冬は  
えらく長く  
ヤエはほとほと  
困り果てていたのでした

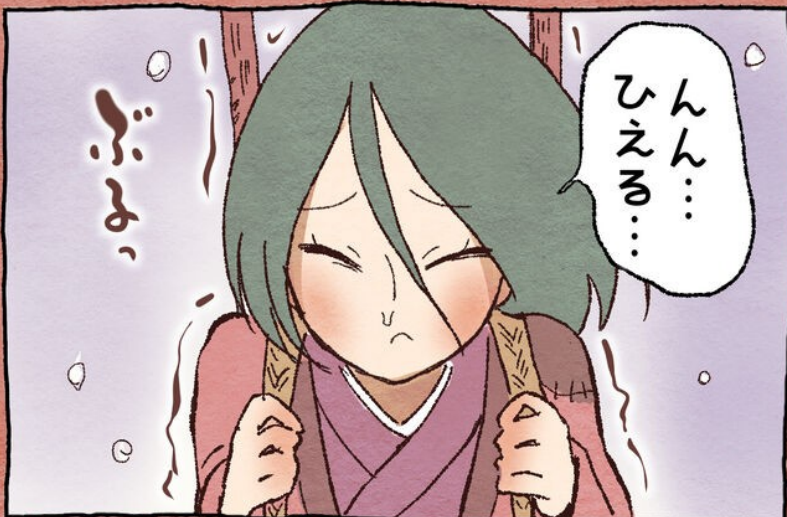


ありや...  
また  
降り始めた

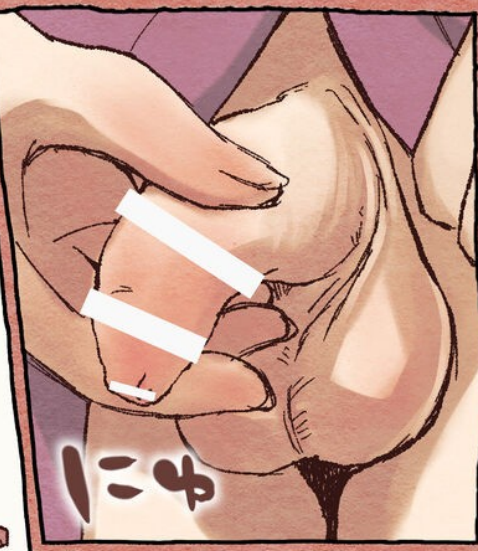
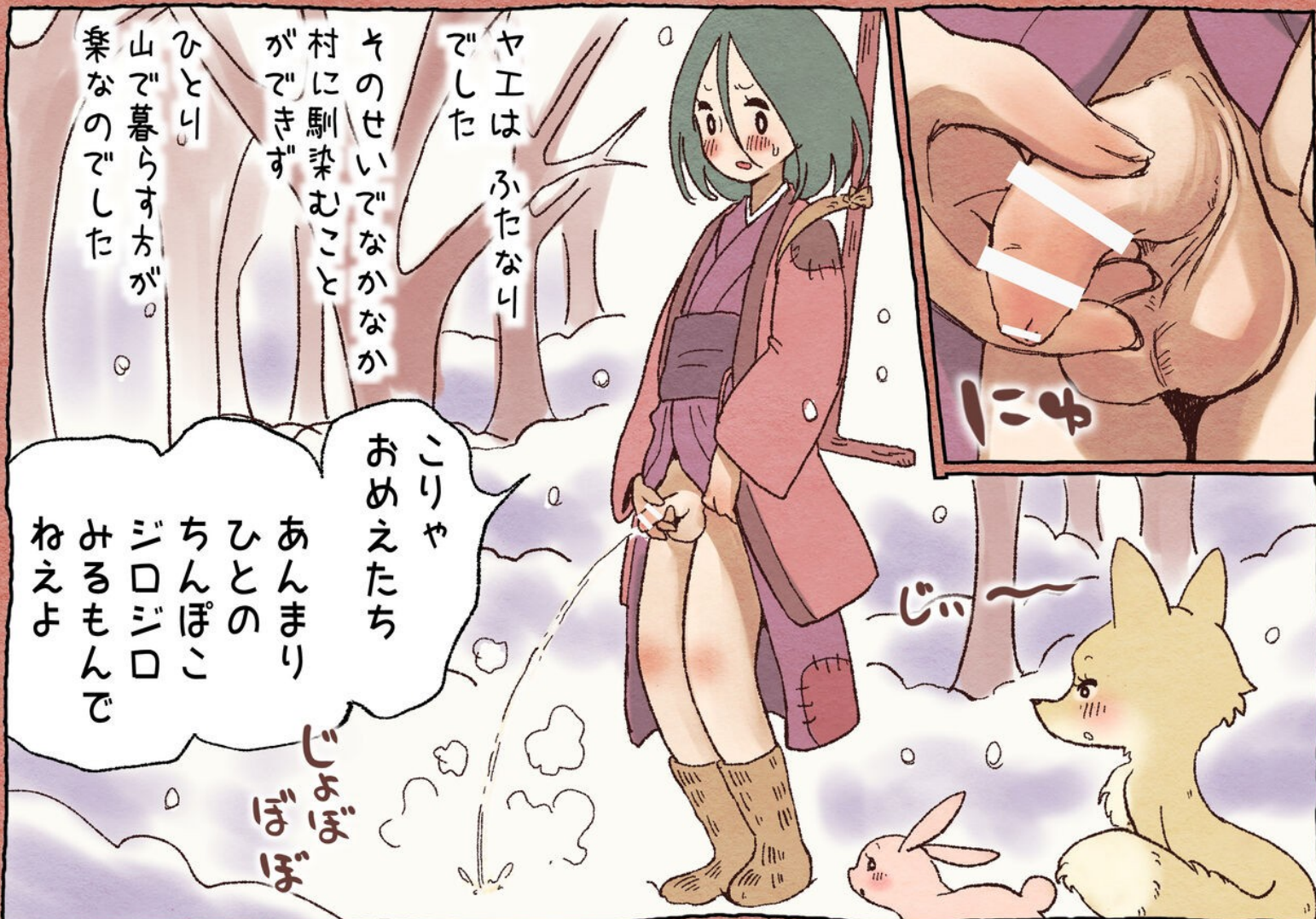
さっさと  
たぎぎ集めて  
帰らねえと...



まど  
まど  
まど



んん...  
ひえる...



にや

ヤエはふたなり  
でした

そのせいでなかなか  
村に馴染むこと  
ができず

ひとり  
山で暮らす方が  
楽なのでした

こりや  
おめえたち

あんまり  
ひとの  
ちんぽこ  
ジロジロ  
みるもんで  
ねえよ

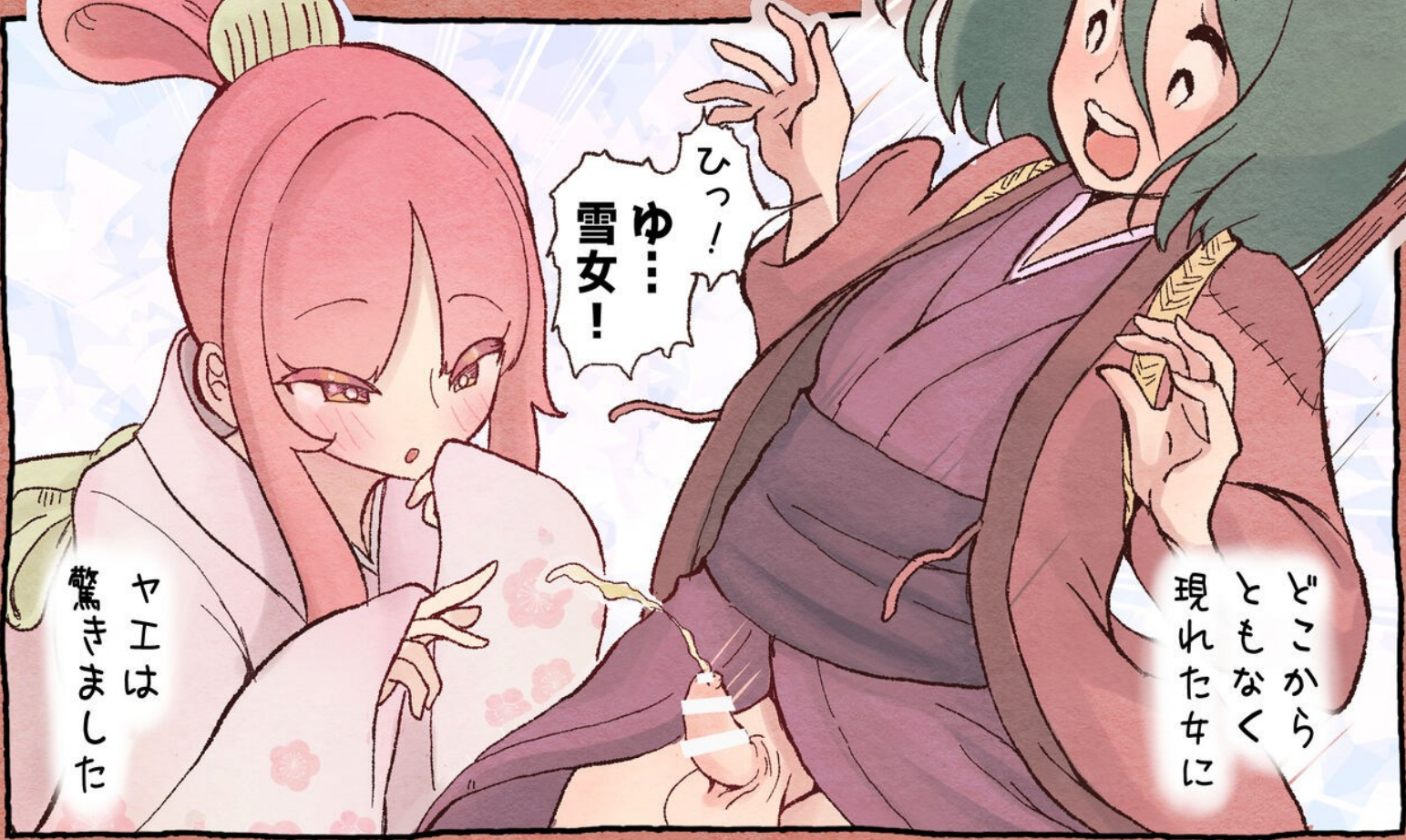
じまぼ  
ぼぼ

じい



と、  
その時  
でした

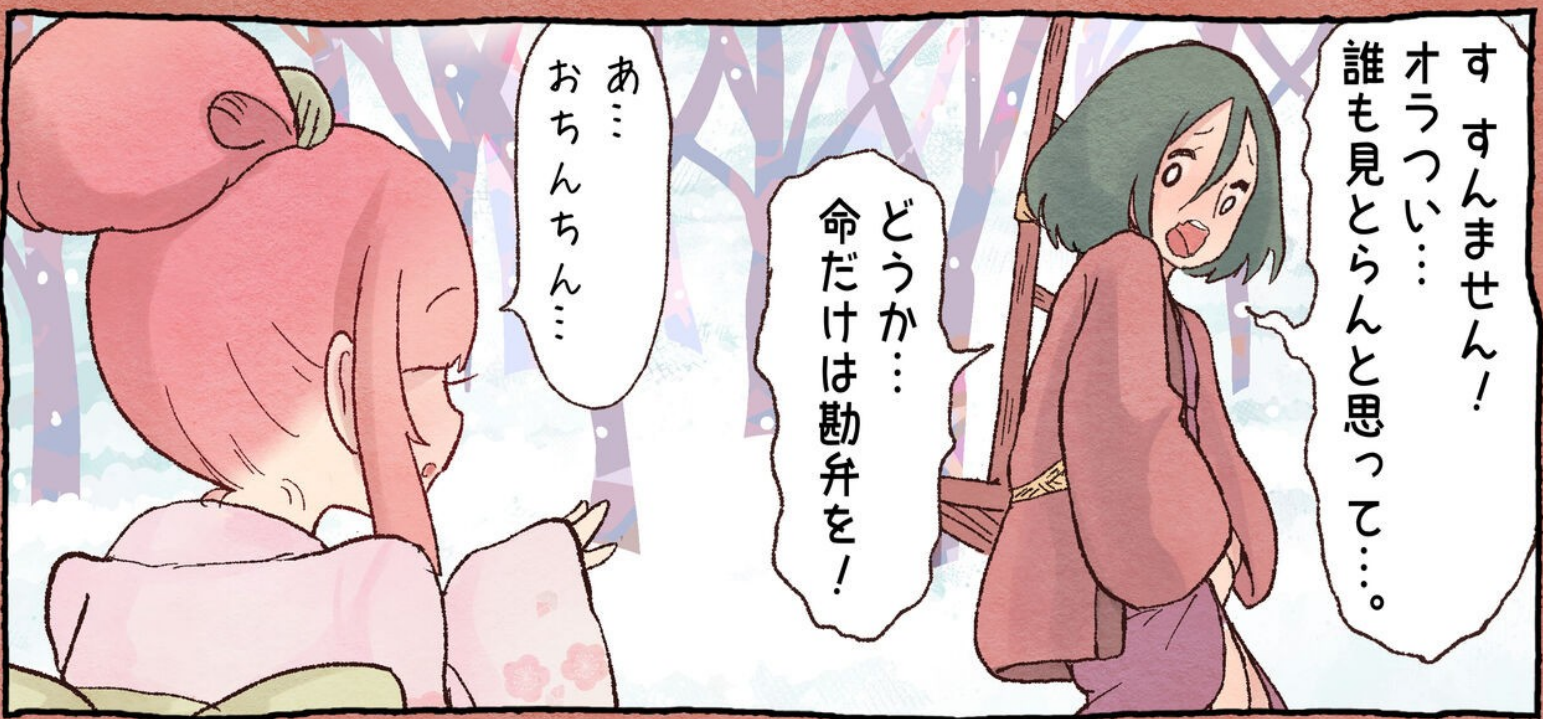
じよぼ  
ぼぼ...



ひっ!  
ゆ...  
雪女!

ヤエは  
驚きました

どこから  
ともなく  
現れた女に



あ...  
おちんちん...

どうか...  
命だけは勘弁を!

すすんません!  
オラついで...  
誰も見とらんと思って...

ごめんなさい  
驚かせるつもりは  
なかったのです…

あんまりかわいらしい  
おちんちんだったもので…  
つい…

私は雪女では  
ありません

春の…  
ミコトさま…?  
ですか？

この山の春の神  
春眠と申します

私うっかり  
朝寝坊…  
いえ…  
春寝坊  
してしまった  
もので…

まだほんの  
一部しか  
春をつくれて  
いないのです

ああ…  
これがほんとの  
春眠を覚えず…  
なんちゃって…

それは申しわけ  
ねえです…

オ…オラ  
てつきり  
モノノケ  
のたぐいかと…

そいじゃ  
オラ忙しいんで  
これで

実は…

ホ…

なるほど  
そうだったので  
ごさいますか

どおりで  
春がこねえわけだ…

もしあなたに  
ちからをかして  
いただけたら  
数日で  
なんとかできる  
かもしれません

そいじゃ  
オウ忙しいんで  
こんで…  
ですが…

ほ本当ですか!?  
春が来るなら  
オウなんだって  
します

そうですか  
よかったです…

では  
ひとまず  
暖かい  
ところへ  
ご案内  
します

いやあ  
ありがたや  
ありがたや…

すぐそこ  
ですの…

だけでも…  
オウにできる事  
なんてあるので  
しょうか…?

うふふふ…  
もちろんです

とまあ  
そんな  
具合に  
ヤエは  
春の神に  
ノコノコ  
ついで  
いくので  
でした

すると  
どうで  
しょう

そこには  
冬の山の中に  
ポツカリと

ちいさな  
春の景色が  
あったのです

この山の春は  
まだこれだけ  
なのです…

ふわ〜

梅の  
花が…

桜も…

それに  
あったかい

チルチル

一刻も早く  
山の隅々まで  
春を届けな  
ければ  
いけません

そこで…  
あなたの  
子種を少し…

いえ…  
できれば  
沢山…  
頂きたい  
のですが…

子種…  
ですか？

子種というと…  
ちんぽこから  
出る白い汁で  
ごやいますか？

はい

オナゴの事を  
考えてシゴくと  
出るスケベ汁で  
ごやいますか？

そうです

ほんで…  
どこに  
出せば…

あの…

あはは…  
いやあ  
そんな急に…

参ったな  
こりゃ

そりゃオラも  
シゴくのは嫌いで  
ねえけども…

ミコト様が  
見てる前で…  
そんな



おん

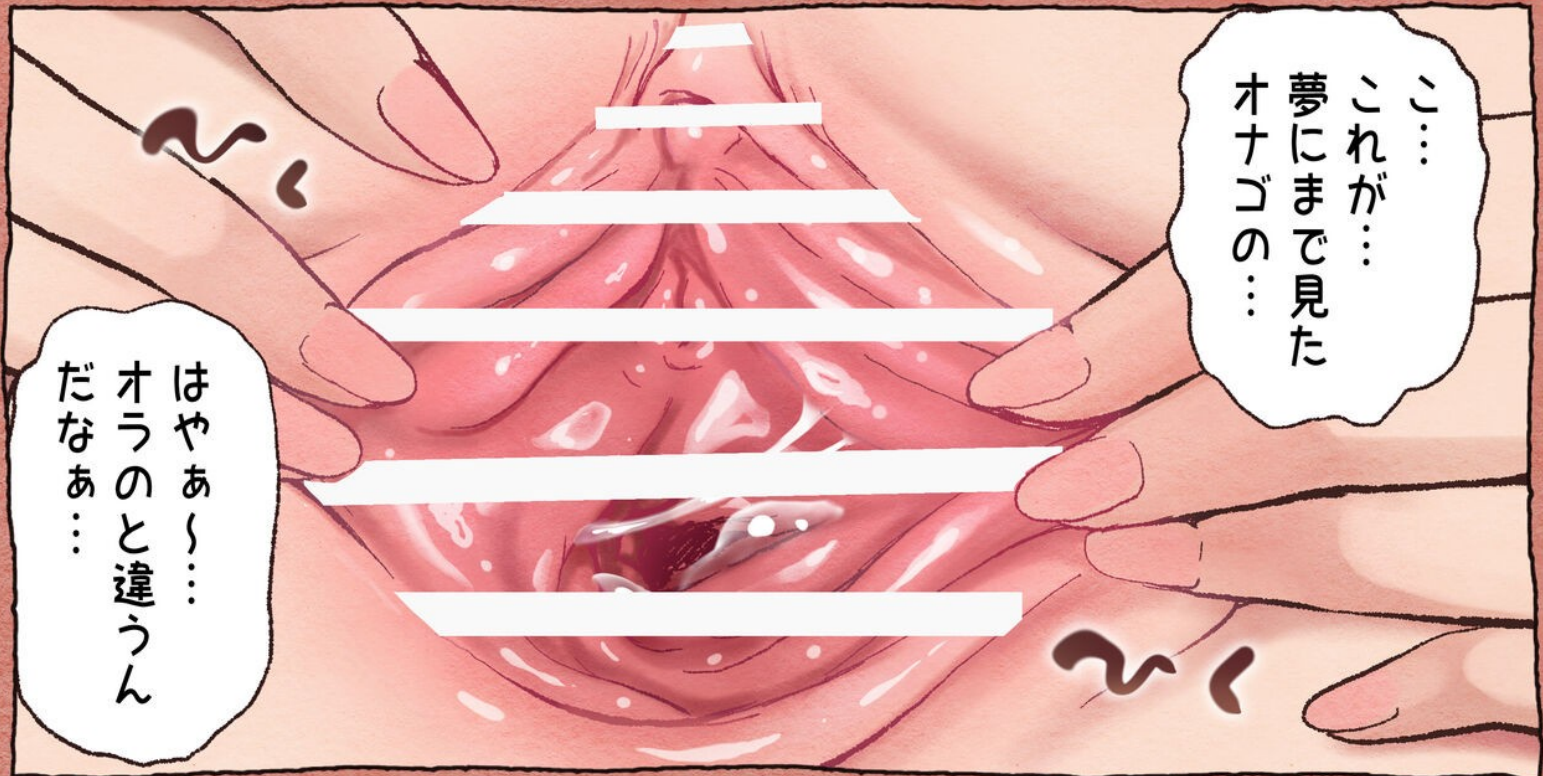
そちらのおちんちんを  
ここへ入れて  
いただきたい...

と申して  
いるのです

あぶあぶ  
あばあば

おん

あぶ



こ...  
これが...  
夢にまで見た  
オナゴの...

はやあ...  
オウのと違うん  
だなあ...

あぶ

あぶあぶ

ちっこくて  
かわいいげな  
マメさ  
ついとる…

こりや  
スケベな  
もんだなあ

しっかり  
目に焼き  
付けねえと

もう一生  
見れねえ  
かも…

あのお…

はやく  
入れて  
欲しいの  
ですが…

えっと…  
あれ?  
こ…こ…こ  
かな?

しゅわ

あっ♡  
そっ♡  
そうです♡

しゅわ

ぐんぐん♡

にゅる♡

にゅる♡

あっ♡  
ああっ♡

きもちいい♡

きもちいい♡  
です♡



あっあ…  
な…  
なんだ  
これ…

こ…れが…  
オナゴの…  
ミコト様の  
ナカ…

はぁ

はぁ

はぁ…ん♡

これっ  
これです♡

はぁ♡



びゅっ♡

びゅっ♡

あぁ♡

あぁ♡



こんな  
きもちいい  
だなんて…

おう…

にゅっ♡  
みちみちっ♡



あっ♡  
だめだ♡

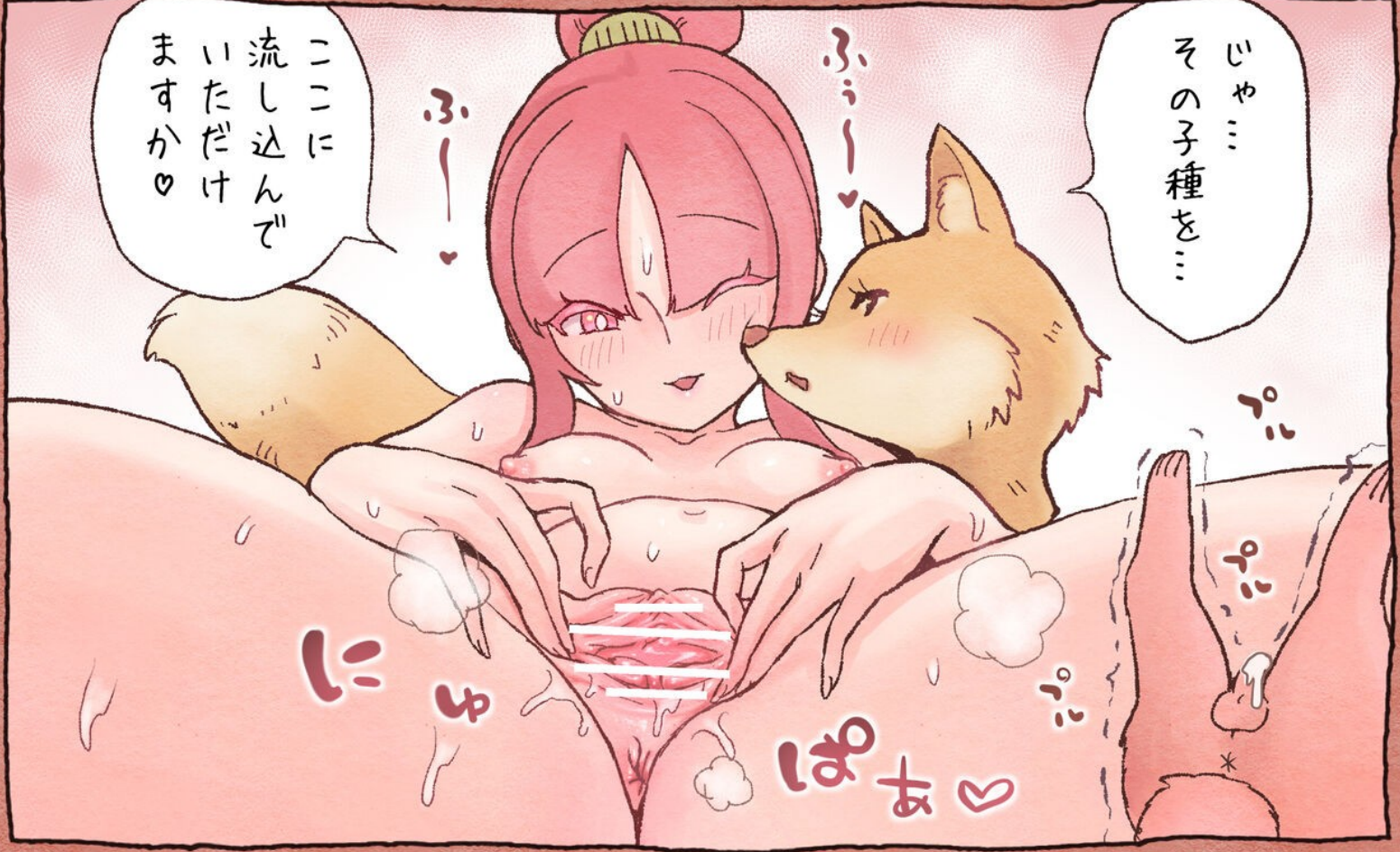
もう…  
で…  
出ちまい  
ますっ

はぁー

はぁー







こんに  
流し込んで  
いただけ  
ますか♡

いや…  
その子種を…

にゅ  
ぽあ♡



はは…  
はは…

とろお〜



ささ…  
早く♡  
こんに♡



あ…♡  
そうですね…♡  
出来るだけ  
奥の方に♡

はあ♡





あーっ♡♡♡  
んは♡♡♡

あーっ♡♡♡

あーっ♡♡♡

あーっ♡♡♡  
あーっ♡♡♡  
あーっ♡♡♡

あーっ♡♡♡  
あーっ♡♡♡  
あーっ♡♡♡



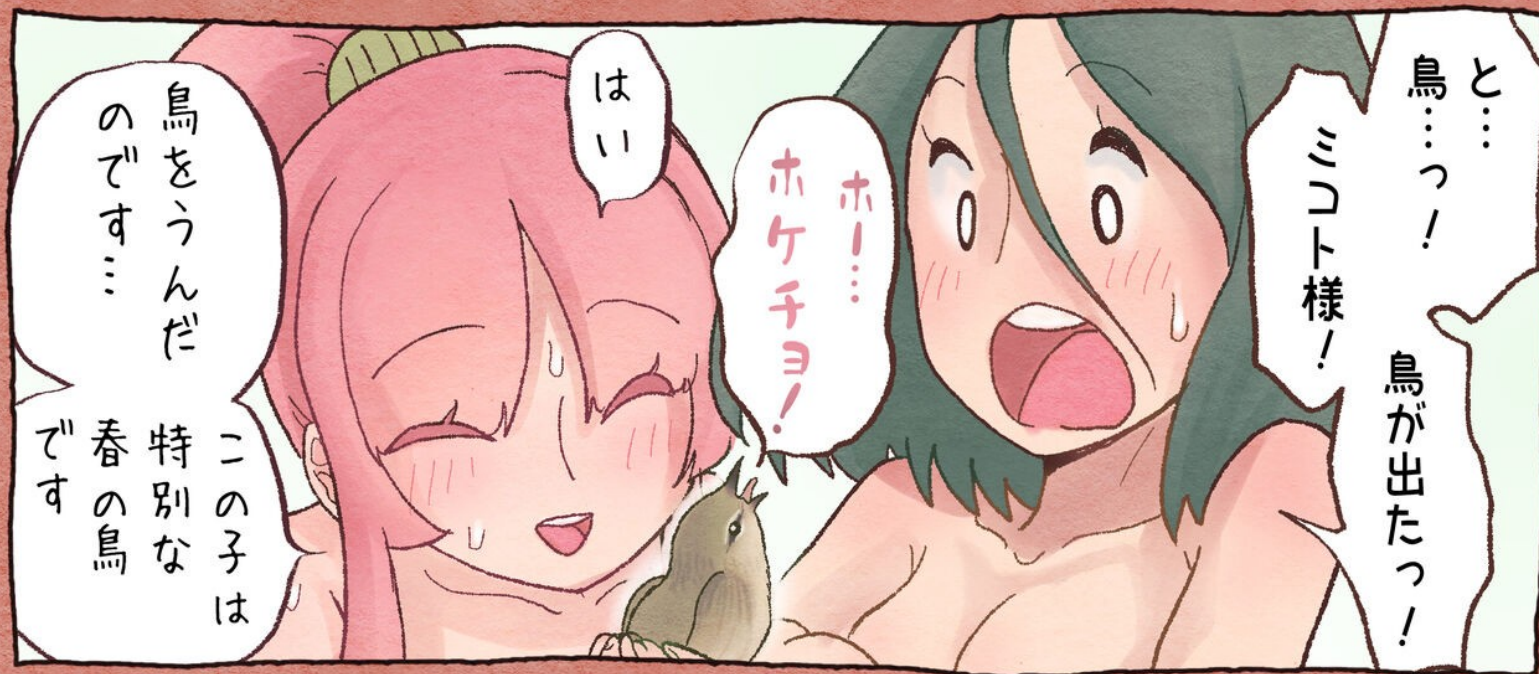
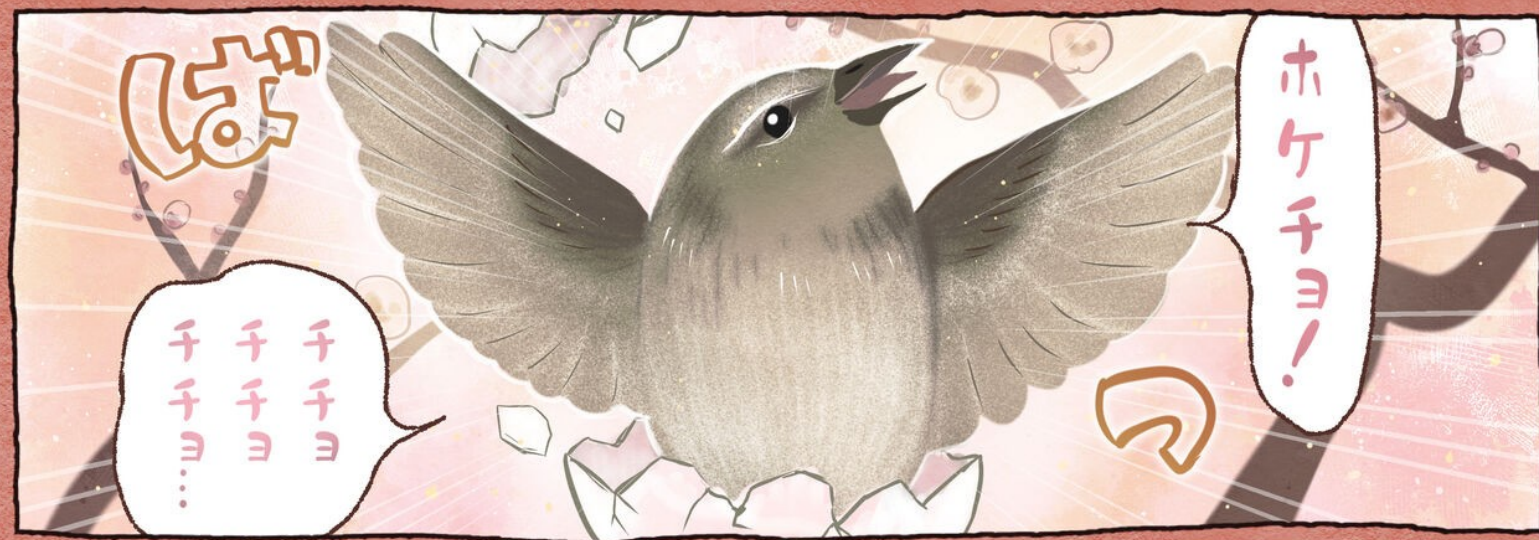
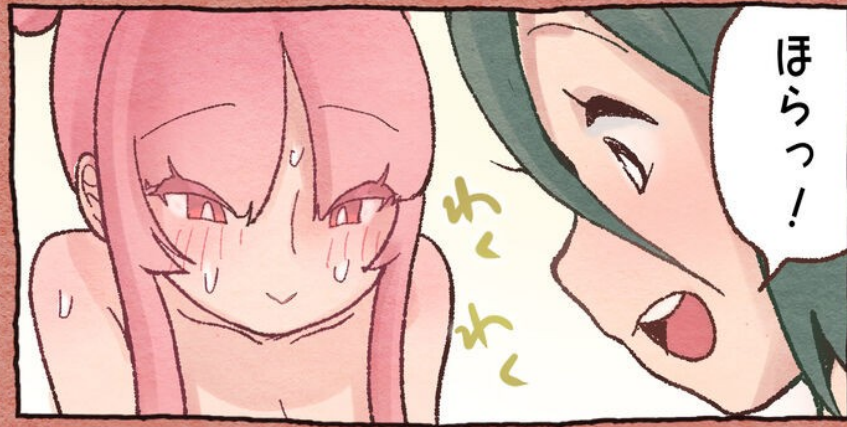
ミコト様!  
うまそうな  
たまごがっ!  
ガク

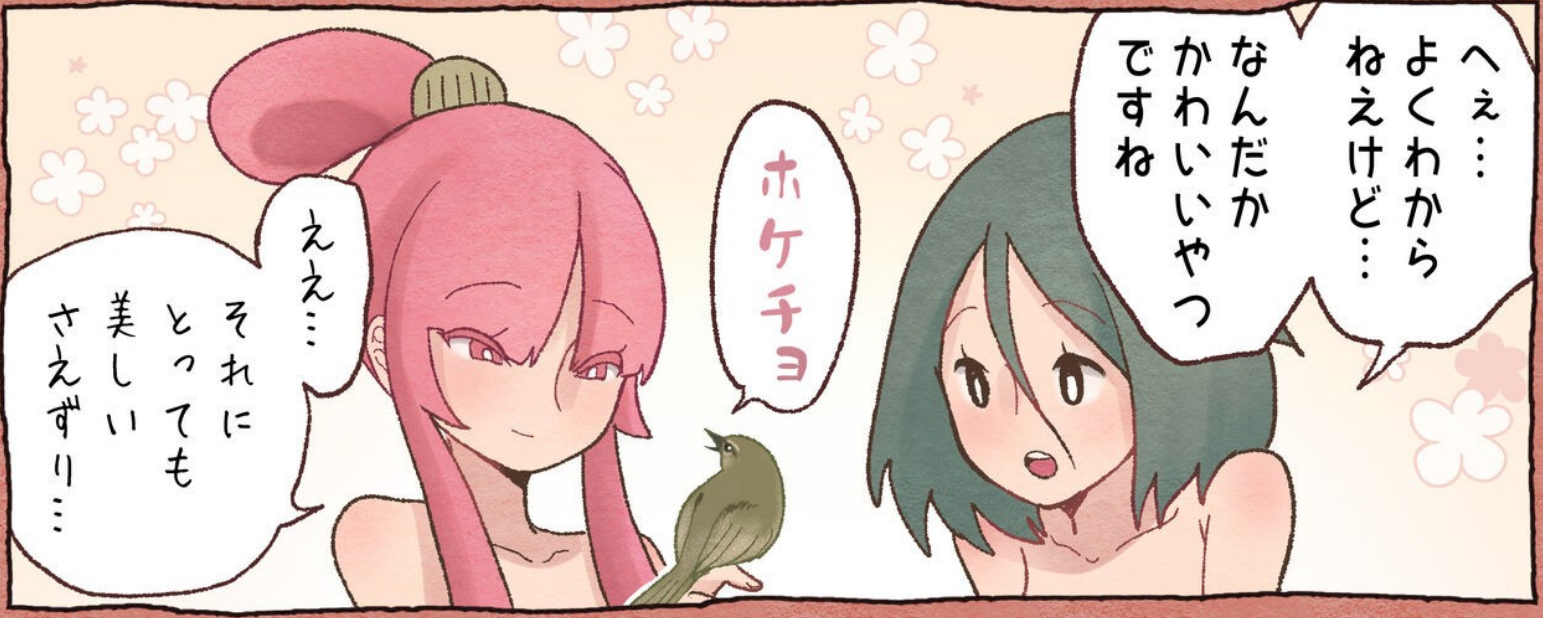
大切な春の  
子です…  
食べては  
いけません…  
ガク

ほか  
ほか



た…  
たまご!  
ポッ





へえ：  
よくわから  
ねえけど：

なんだか  
かわいいやつ  
ですね

ホケキヨ

ええ…

それに  
とっても  
美しい  
さえずり…

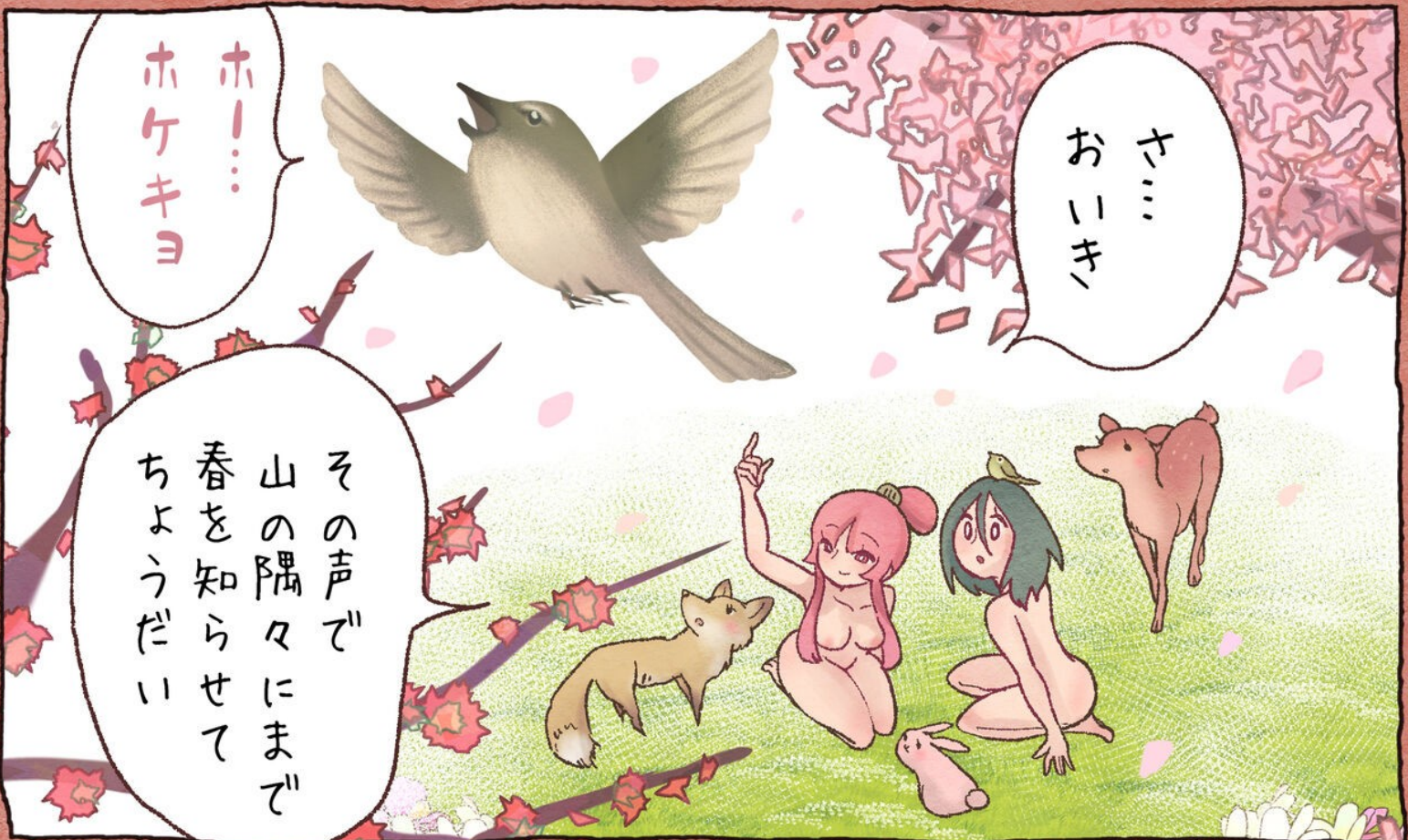


この子を

うぐいす  
春生口鳥

と名付け  
ましよう

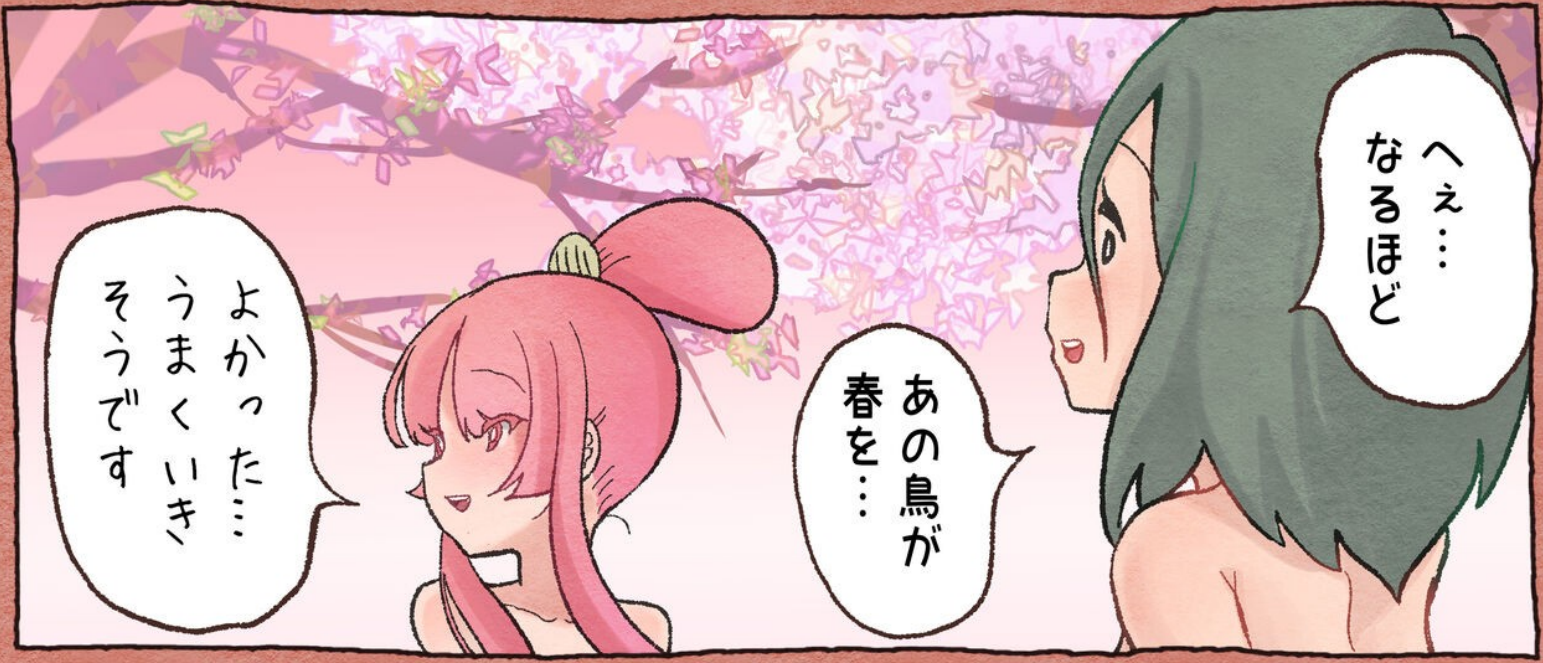
この声なら  
きつと  
雪深く眠る  
山を目覚めさせて  
くれるはずです



さ…  
おいき

ホ！…  
ホケキヨ

その声で  
山の隅々にまで  
春を知らせて  
ちようだい



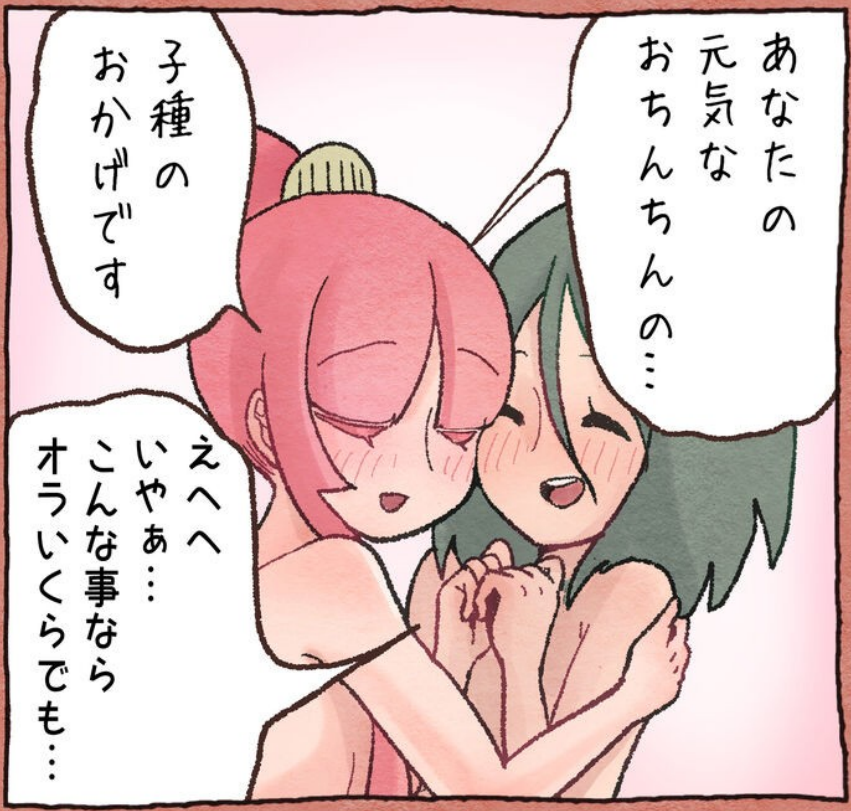
へえ…  
なるほど

あの鳥が  
春を…

よかった…  
うまくいき  
そうです



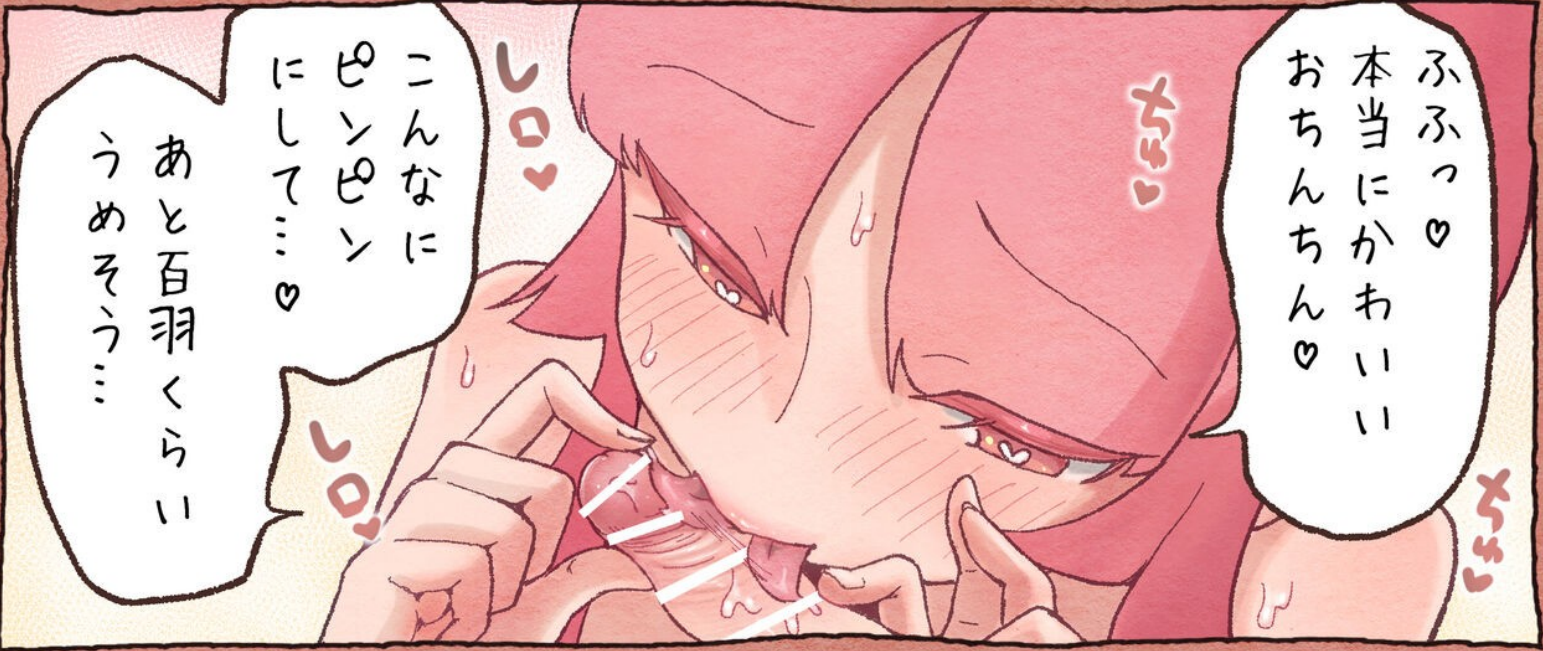
そうですか  
いやあ  
まだまだ  
沢山  
孕ませて  
くださいね♡



あなたの  
元気な  
おちんちんの…

子種の  
おかげです

えへへ  
いやあ…  
こんな事なら  
オウいくらでも…



ふふっ♡  
本当にかわいい  
おちんちん♡

こんなに  
ピンピン  
にして…♡

あと百羽くらい  
うめそう…



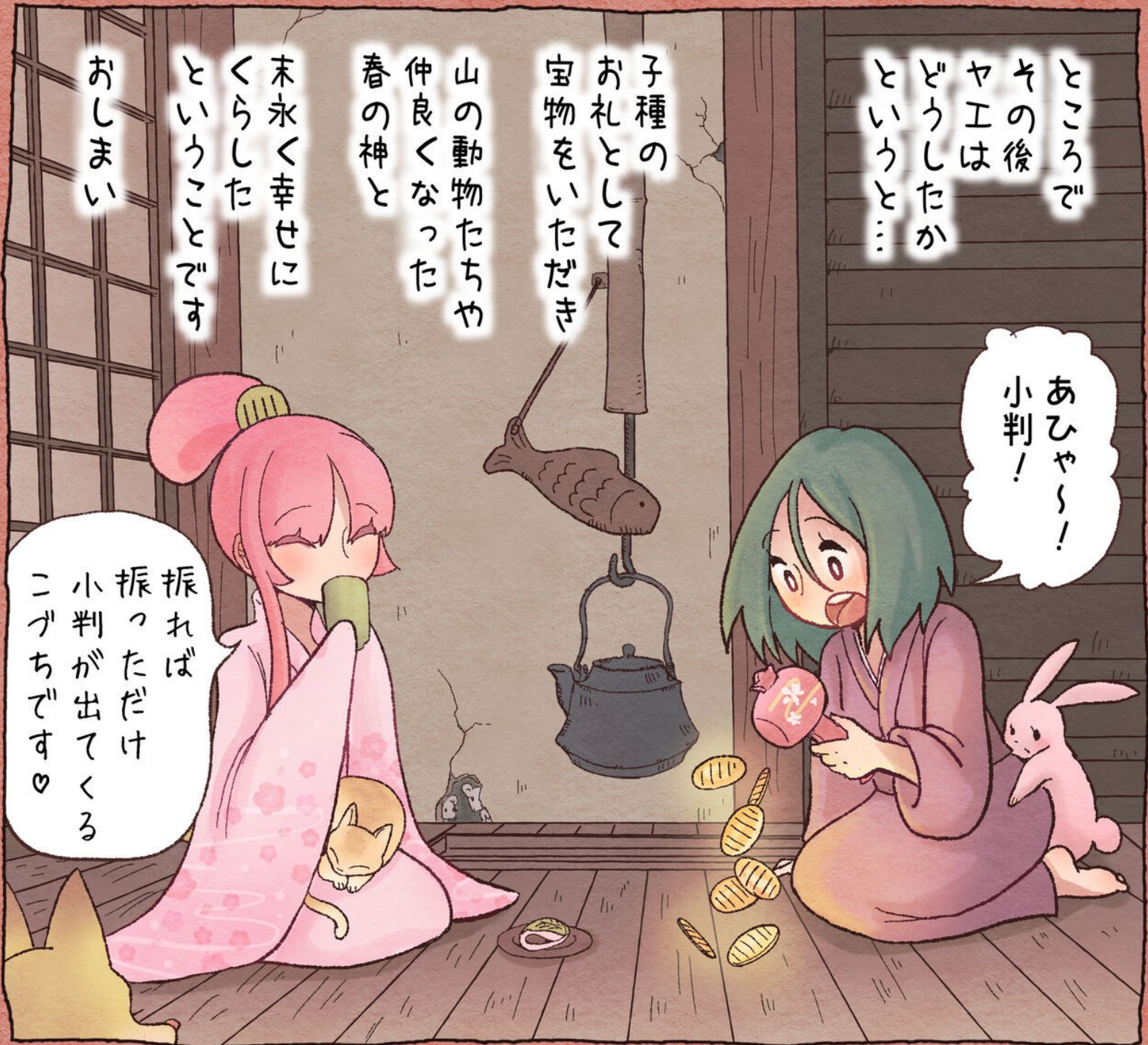


こうして  
ようやく  
長い長い  
冬から  
山は目覚め  
ました

ホケキョ

ホ

春を歌う  
うぐいすは  
こうして  
うまれたのだ  
きうですよ



ところで  
その後  
ヤエは  
どうしたか  
というところ

あひゃく!  
小判!

子種のお礼として  
宝物をいただき

山の動物たちや  
仲良くなった  
春の神と

末永く幸せに  
くらした  
ということですよ

おしまい

振れば  
振っただけ  
小判が出てくる  
こづちです♡